



施設内で活躍する「赤ちゃん職員」

業務は利用者を笑顔に

特養ホーム〃赤ちゃん職員〃活躍 自由に散歩

奥州いさわ会

社会福祉法人奥州いさわ会(藤田春芳理事長)は高齢者支援事業部門で、「赤ちゃん職員」として3人を採用した。業務は、同法人が運営する施設内を保護者と共に自由に散歩し、利用者に笑顔になってもらうこと。多世代交流の場となるユニークな取り組みで、「かわいい」「癒やされる」と利用者が歓迎。施設内が和やかな雰囲気包まれている。

参考：職員募集を行い、導入に至った。ぬくもりの家の佐々木明美施設長は「産休中の職員が赤ちゃんを連

れてきた時などに利用者の皆さんが自然と笑顔になり、赤ちゃんの持つ力を実感していた」と話す。
赤ちゃん職員は、言葉をうまく話す前の0-2歳ぐらいを対象に随時募集している。月曜日から金曜日の午前10時-午後4時の都合のいい時間に施設内を歩き回り、おながすいた時や眠い時の休憩も自由。給料は菓子や小物類(ハンカチや靴下など)が入った「お

楽しみ袋」で、同法人運営「ばんど」のクーポン券も保護者に手渡される。交付式に出席した真莉ちゃんの母の翠さん(32)は「たくさん歩けるようになったので、触れ合いの機会が心の成長につながってくれたら、水彩ちゃんの母の瞳さん(37)は「いろいろな方と触れ合いながら人見知りをせず、にこにこ過ごしてほしい」とそれぞれ話していた。

勤務場所が胆沢の▽やまゆり荘▽やなぎの里▽ぬくもりの家——の特別養護老人ホーム3施設。胆沢南都田の井上真莉ちゃん(1歳3カ月)と森本水彩ちゃん(6カ月)、水沢前田袋の岩渕未空ちゃん(5カ月)の3人が活躍を始めた。
辞令交付式がこのほど、ぬくもりの家で行われた。藤田理事長は「赤ちゃん職員に任命します。たくさんお散歩に来てください」と辞令書を手渡し、「勤務時間は自由、欠勤も全然構いません」とこやかに呼びかけた。
取り組みは他県の事例を